

平成30年度第2回三木市総合計画策定審議会の概要

(委員意見部分)

日時:平成31年3月26日(火)

午後2時30分

～午後4時30分

会場:三木市役所5階大会議室

(会長)

- このたび策定する三木市総合計画は、三木市のあらゆる政策の最上位に位置する計画である。また、この計画とは別に、地域創生に係る三木市創生計画もあるが、そちらは人口減少及び地域活性化の対策に特化したものとなっている。この審議会では、三木市創生計画の内容に加えてハード面とソフト面を総合的に考えていきたい。
- 非常に重要な会議であるので、委員の皆さまにはご協力をお願いしたい。

(委員)

- まちの将来を考える上では、「力を入れないこと」についても考えなければならない。あくまでも1つの例ではあるが、市外への移動手段の利便性は捨て、市内だけで生活できるまちをめざすという選択肢もある。「力を入れること」だけでなく、「力を入れないこと」についても考えると、めざす三木市の姿がはっきりしてくる。
- 市民アンケート、三木若者ミーティング及び三木みらい会議といった意見聴取を行っているが、参加者が出した意見がどう反映されているか、どう生かされているかについての丁寧なフィードバックが必要であり、それをおろそかにすれば、市に対して協力してくれる市民はどんどん少なくなる。そのため、総合計画が策定された際は、丁寧なフィードバックを考えていただきたい。

(委員)

- 三木みらい会議の開催概要を見ると、年齢層に応じた課題や夢の特徴、ニーズがある。30代～40代の参加者が多い地区では教育に関する意見が多い。一方で、参加者の年齢層が高い地区では、交通の問題に関する意見が多い。三木市民の中でも年齢層によって意見や要望は多様である。
- 基本構想素案の中で、表や図のタイトル位置のルールを統一することや、目

次表現などの整合性をとる必要がある。広く公開され、多くの方が見るものなので、整合性がある方が分かりやすい。

(委員)

- ・総合計画のテーマを考える上で、三木市の弱みを考えることが重要である。阪神地域に近くアクセスも良いので、住みやすいにもかかわらず、人口は減少する一方である。そのため、人口減少を解消することが、大きな改善方針の1つである。例えば、手厚い保育事業を行っていれば、小さな子どもを持つ親は三木市に住みたくなる。
- ・また、三木市の中で、どのような雇用対策を展開するのが重要になってくる。三木市には工業団地があるものの、市内に住んで市内で働いてもらうために三木市が行っている取組が明確になっていない。そのため、例えば大学などを通じて学生への情報提供を進めるというのも1つである。
- ・これまでは、定年後に農業を始める人が多かったので農業は守られてきた。しかし、定年が延長されれば農業の後継者不足が問題となる。
- ・元気な高齢者が市内のあちこちに住んでいるので、そういった方が交流できるシステムがあればと思う。

(委員)

- ・前回の審議会では、若者と高齢者という縦の年齢層のつながりがある三木市をめざしてほしいという意見を出した。
- ・三木若者ミーティングの資料を見ると、学生は、前向きな意見やアイデアを沢山持っているという印象を受ける。そこで、三木市の商業や観光に若者の意見を取り入れてはどうかと思う。ある地域では、PRに長けた若者に地域の魅力や情報を発信するウェブサイトを制作してもらい、その中でやりがい生まれて地域に定住したいという若者に対しては、市が補助をしている。このような取組が、チーム三木のイメージにつながっていくのではないかと思う。
- ・人口減少に見合ったまちづくりについては、市内で働き、市内に住み続けてもらうことが大事であるが、私は、一度市外に出てもいいと考えている。しかし、今の三木市の現状を考えると、市内に住む親が高齢になったとき、親の通院や介護に市外の子どもがどのように関わられるかが分からず、困ってしまうのではないかと思う。そのため、理想としては、この先5～10年で公共交通網を整備して、高齢者が車を持たずに動ける動線を造り、スムーズに

病院や介護施設に行けるだけでなく、自信を持って外出することができるようにすれば、一旦市外に出た人は、親が元気に暮らしている様子を見て安心できる上に、三木市ならば自分も安心して暮らせるから帰ってこようかと思えるのではないか。

(委員)

- ・就職すると、会社の立地や職種によっては、本人の希望によらず、市外へ出ざるを得ない場合がある。そういった人が、何らかの事情で三木市に戻ってくる機会ができたときに、三木市をどう感じるかが大事である。例えば、私は、三木市に戻ってきて、子育てしやすさ、学校やまちの環境、生活コストの安さなどの良い所が思い浮かぶ。そうすると、SNS等でこのような働き方、生活ができるという話も広がる。特に子育てをする親にとっては、働き方改革によるテレビ会議やスカイプ会議等の在宅勤務を採用する会社が増えており、1週間のうち2日ほど会社に行けば仕事ができるようになっている会社もある。我々が若い世代にいろいろな働き方を示していけば、自分のふるさとに住みながら働くこともできる。
- ・高齢化が進むと人口は増えず財政規模が縮小する。その中で市の財政を良くしていくためには、富裕層も含めて三木に来たいと思っていた層を呼び込めないかと思う。三木市は神戸や大阪へのアクセスが良く、自然が豊かでゴルフ場があるので、古民家を改装して別荘にしたいという人もいるはずである。また、ITを取り入れた農業をやってみたい若者を呼び込むこともできると思う。あまり山奥や田舎に行くと、都会に出たり故郷へ帰ったりする際に不便であるが、三木市ならばそのような心配も無い。さらに、外国人が生活しやすい体制をつくれれば、三木市で安心・安全に暮らせるようになる。三木に地縁の無い方にどうアクションしていくかが重要である。
- ・三木市内に雇用をつくる方法の1つとして、大手企業が給与計算などの事務だけを行う事業所を持つ「シェアードサービス」という取組がある。これを実施すると、企業のコストを削減できる。私の法人でも採用しており、新潟に事業所がある。市内には大学があり、教養のある人が多く集まるので、企業にとってもプラスになるので、こういった誘致を進めれば人口も増えるのではないかと思う。

(委員)

- ・私は、三木みらい会議に参加した。他の地区でもそうであると思うが、参加

者は、『『どんな地域にしたい』という夢を実現する上で、地域でできること』で出た意見をどのように生かしていくのか気にしていると思う。そのため、どのように生かすかという方向性を示した方が良いのではないかと思う。三木市の中でも地区、町などの様々なまとまり、団体があるので、出た意見を仕分けして、できるところに任せていく、もしくは協力できるもの同士を上手く結びつけることで、市民の小さな協力があればできるようなことが出てくると思う。

- 平成31年度の健康ポイント事業において、健康とその他の活動がリンクする形を考えてほしい。例えば、ボランティアポイントと健康ポイントを連動させて、市民が、参加したボランティア活動がどれだけ健康につながったかが分かるようにする。連動させる取組によっては、それぞれで担当課が違うことがあると思うが、担当課同士で連携して動いていただきたい。

(委員)

- 前回の審議会でも発言したように、全体的に住みやすいまちづくりをしてほしいと思う。私は、現在三木市内で暮らしており、今後引っ越すつもりはない。三木市は、都市部に比べて物価が安く生活もしやすいまちであると思っている。しかし、市外に住んでいる私の子どもは、少なくとも定年までに三木市へ帰ってくることは考えていないと言っていた。それは、三木市に住むと、近くに働く場所がなく、年齢的に転職も難しいため、今の生活水準が維持できるかどうかは疑問であるからと言っていた。それは、就職して生活している人からすれば当然の感覚であると思う。
- 私も、将来子どもに迷惑をかけずに生活したいと思っている。最終的には、子どもに助けてもらわなくても、近隣の住民同士で助け合って暮らしていけるようになれば良いと思って地域で活動している。住みやすさの指標の中には交通の利便性などがあるが、小さな地域の中で、年齢に関係なく人と人とのつながりで助け合っているというのも1つであると思う。
- 三木市は、農村や市街地の広い市域があり、三木みらい会議で出た意見も若干地域によって異なっているが、根本的な部分では、地域や隣近所で助け合うという思いが共通しているのではないかと思う。そういったまちが、将来的に暮らしやすいまちになるのではないかと思う。
- 私の地区では、私が重い荷物を持って歩いていると、小学3年生の男の子が「手伝いましょうか。」と声をかけてくれる。このように、人と関わって生きていけるというのは嬉しいし、それが住みやすいまちの姿の1つであると思う。

(委員)

- ・市町村の幸福度ランキングにおいて、三木市が兵庫県で1位に入ることをめざしてほしい。世界幸福度ランキングでは、客観的な視点で評価した場合と主観的な視点で評価した場合のランキングがある。2019年に客観的な視点での幸せな国ランキングでは、フィンランド、デンマーク、ノルウェーが上位にランクインしている。客観的な視点での評価項目は、GDPや社会保障の充実などである。一方で主観的な視点での幸せな国ランキングは、評価項目は分からなかったが、フィジーが1位であった。三木市も客観的な評価で幸福度の上位に入るのもいいが、市民に幸せかを聞いたときに、幸せだと答えられるようなまちになってほしい。これから市で行う全ての施策が、市民が幸せと感じることにつながれば良いと思う。

(委員)

- ・総合計画策定審議会の委員になったことで、以前より市や地域の取組に参加しようという気持ちで生活するようになった。
- ・先日、中途失聴・難聴者部会が開催している湯の山街道を歩くイベントに参加した。今まで湯の山街道という文字は目にしていたものの場所を詳しく知らず、実際に歩いたこともなかったので、ガイドさんに案内してもらおうと面白く、魅力を知ることができた。このように、実際に自分の目で見て、足で歩くことで、広告などで見るよりも魅力を知ることができると思うので、市民がこういったイベントに参加できる機会があれば、三木市の良さを実感出来ると思う。

(委員)

- ・大学へは、約1時間半かけて電車で通学していたが、家から大学までの距離が自分より遠い友人と、通学時間が同じであったことに驚いた。また、通学時間以上に高額な交通費が痛手であった。交通費は、奨学金やバイト代で払っていたが、通学時間の長さもあったため、遊ぶ時間だけでなく勉強の時間まで削られてしまった。また、大学でできた友人を三木に呼びたいと思ったが、他の鉄道会社の運賃と比べて神戸電鉄の運賃が高いことに驚かれた。しかし、下宿をするとそれ以上にお金がかかるので4年間実家から通わざるを得なかった。
- ・私は、三木市は非常に良いまちであると思っているが、来るのにお金や時間がかかるせいで来てもらえないのは非常に残念だと思う。人を呼び込んで三

木市の良さを知ってもらえれば、口コミやSNSで三木市が良いまちだと伝わり、多くの人に興味をもってもらえることができると思う。友人に三木市の良さを伝えてきたが、若い人たちの関心はSNS上での反応であり、きれいな空気や温かい人柄といった三木市の良さを知ってもらえなかった。

- 交通の便が良いところに人は集まってくると思っている。私の大学生活の中で、通学時間や交通費によって時間や行動が制限されていたと感じている。そのため、三木市からでも遠くの大学まで安い交通費で通えるなど、自分のやりたいことができるまちになってほしいと思う。

(委員)

- 三木市が県や国よりも早いペースで高齢化が進んでいることが心配である。その一方で世帯数が増えているのは、1人暮らしが増えているためである。それを踏まえて、三木市が10年後にどのようなまちになっていけば良いかと考えた。その結果、多世代の方が受けられる富山型デイサービスのよう、三木型の共生型サービスを早く構築することが必要であると考えた。子どもと高齢者が共にサービスを受ける中で互いに良い影響を与えるという仕組みやそのための施設が三木市にもあれば良いと思う。このような取組のモデルは、全国に多く見られるので、どのように三木型のモデルを構築していくかがこれからの課題である。
- みらい会議において、三木市の豊かな自然を自慢できる場所であると思っている市民が多くいた。この自然や景観は、長期間にわたって、農業従事者が草刈りなどの手入れを続けた結果残っているものである。これを守ってほしいと思う。そのため、基本構想素案の15ページにある「先人たちが築いてきた誇るべき歴史、文化、産業が息づき」の箇所に「自然」という言葉も入れてほしい。自然を残すというのは難しいことであるが、市民が、自然に触れる体験を楽しめる機会を提供してほしい。
- 現在、「新三木市史編さん事業」が進んでいる。市史編さん事業は長期的で重要な事業であり、これを総合計画の事業の1つとして位置づけてほしい。もうすぐ、第1弾となる「地域編 口吉川」が発刊される。そして、これから残りの9地区分についても同様に進んでいく。それに伴って三木市が誇るべき歴史、文化、自然が浮き彫りになってくる。この事業についても是非総合計画の事業に入れてほしい。また、それを踏まえると9ページの「金物資料館等」の中に歴史資料館も含まれていると思うが、歴史資料館の名称を入れてほしい。

(委員)

- ・企業は、いろいろな面で地域に貢献している。例えば、法人税や固定資産税を納め、市に雇用を生んでいる。そして、雇用した方が三木市に定住すれば行政への貢献になる。三木市をベッドタウンにするのか、企業を誘致するのかは一概に言えないと思うが、企業は地域に大きく貢献していると考える。そのため、チーム三木の中に企業は入っているが、一方でアンケートに回答することもなく、会議に呼ばれたこともない。企業が果たしている役割をもう少し理解していただいた上で工夫が必要であり、企業をもっと信頼しても良いのではないかと思う。銀行からは海外進出支援の話もあるが、海外に進出すれば地域の収入や雇用に悪い影響が出てしまうので、これからも三木で頑張りたい。
- ・これから増える外国人や在宅勤務を活用していくべきである。最近、インターネット環境があればどこでも仕事ができる。そういった状況を生かして企業を誘致するのも1つである。また、ある自治体では、廃校を再利用して市立の日本語学校を設立し、300人ほどの留学生が在学している。さまざまな工夫をすることで、人を集めることができるのではないかと思う。
- ・先ほども出た意見であるが、地域のコミュニティを形成することは暮らしやすさにつながる。企業にもそういった面で力になれると思うので、企業からも意見を聞いてほしい。

(委員)

- ・前回の審議会で、私が、住みたいまちベスト10をめざしてはどうかと言ったのは、住みたいまちベスト10になったまちを分析すれば何かしらのヒントがあるのではないかと思ったからである。
- ・尼崎市の二番煎じかもしれないが、三木城を再建すれば、三木市の魅力の1つになるのではないかと思う。また、三木城に行くまでの動線整備も必要となる。三木上の丸駅から近いので神戸電鉄にもっと乗ってもらうきっかけにもなる。
- ・三木市という名前にちなんで、成人式で植樹をしてはどうかと思う。どこに植えるかは分からないが、例えば遊歩道沿いに植えて、将来その道を散歩するといったことや、その近くに住むということがあっていいかもしれない。
- ・三木みらい会議の意見を見ていると、三木市は広いので買い物へ行くのも苦勞する方がいるのではないかと思う。その方たちへの支援策として乗り合いタクシーやコンビニと連携して送迎のための車を運行することも考えられる。

- ・三木みらい会議の意見の中で、「避難場所の位置が危険」という意見や「避難所の開設状況が分からない」という意見があった。市としてはパンフレットや広報誌などで示していると思うが、ハザードマップについては、いつの時点の、どのような状況を想定してつくられたものなのかが気になる。近年は、豪雨災害などがあり、見直しが必要なのではないか。また、一斉防災訓練などの実施も考えなければならない。平成31年の事業の1つである、防犯カメラ設置事業について、地域の方からは、人が集まる場所や公園等にも防犯カメラを設置し、防犯体制を充実させてはどうかという声もある。
- ・三木市は酒米山田錦の生産量が県下1位でありグレードアップの支援事業もしている。兵庫県が全国に占める山田錦のシェアは約60%であり、非常に高い。しかし、そのシェア率も低下しつつある。そのため、新しい品種の開発も進めていく必要がある。
- ・健康関連では健康ポイント事業については、加西市で行っていた万歩計で歩数を記録し、達成するとポイントや商品券がもらえるという取組からさらに発展したものを期待している。市民が健康になって神戸電鉄やみっきいバスの利用が高まれば良いと思う。

(委員)

- ・三木市の中で人口が増えてきている地区がある。理由は、利便性が高いことと、渋滞が少ないことである。現在、三木市は、明石から小野への通過点となっている。そのため、三木市内の各地に人が集まる場所をつくれば、慢性的に渋滞するような場所も無くなる。人が集まる場所が1か所できれば、その周辺にできた施設にも人が集まり、次第に三木市全体に人が集まるようになる。
- ・防災について、阪神淡路大震災で倒壊した家屋の下敷きになった人を助けたのは、地域住民がほとんどであった。そう考えると地域コミュニティや自治会が地域住民にとって大事になってくる。地域に繋がりがあれば継続して住もうと思う人が多くなるのではないか。また、三木市内には空き家が多くあるので、そこに住んでくれる人が増えれば、人口や税収が増える。
- ・小野市は企業誘致がうまくいっているが、三木市には企業があまり進出して来ない。そこで、三木市に来た企業には優遇措置を施すなどして、まずは三木市で企業活動をしてもらうことが必要なのではないかと思う。それが税収や人口の増加につながるのではないかと思う。また、三木市は山陽自動車道で市外とつながっているのも、優位であると思う。

(委員)

- 交通機関の利便性については、老人クラブのイベントなどを三木市内で開催する際、車が運転できないため参加できない人も多い。よって、交通の利便性が一番重要であり達成してほしい項目である。市民アンケートの結果を見ても、重要度が1位であるが満足度は最下位である。また、このような現状では、運転免許証を返納するとどこにも行けなくなる。市役所の管轄ではないかもしれないが、三木市内限定や平日の日中限定の免許証などがあればという夢がある。

(委員)

- 私は「このとり大使」をしていて、先日交付式に参加した。このとり大使の目的は、子どもを増やすことであり、そのために結婚を促す役割がある。三木市は、県内でも出生率が低い市である。私は、長い期間民生委員を務めてきたので、子どもたちにも目を向けていければと思い、このとり大使になった。そういった中で、三木市では出会いサポートセンターなどで結婚する人を増やし、子どもの増加につなげている。やはり子どもを増やすためには、市内で結婚してもらわなければならない。そして、市内で結婚してもらうためには、企業の誘致や住宅の整備を進め、市内に住んでいただき、これからの三木市を若い力で支えてほしいと思う。
- 私は、市民の集いの場が必要であると思っている。その中で市民活動センターの1階のトイレが老朽化しており、臭いもひどくなっている。北播磨の民生委員の集まりで市民活動センターを利用することがあるが、市外から来られた民生委員からは評判が悪い。多くの世代が集う市民の憩いの場であるのに、平成31年度の予算に上がっていないというのは、優先順位が低いと思われるということであり、非常に残念である。予算には限りがあり、何でも予算をつけられるわけではないと分かっているものの、市民活動センターの利用者の1人として、トイレの老朽化を解決してほしい。

(委員)

- 基本構想素案の22ページについて、「誰一人取り残さない」という記述があり、子どもと高齢者のみ具体的な記述があるが、障がい者や外国人についての記述が無いので、そういった方でも安心して生活できるまちづくりをするという視点を加えてほしい。

- ・基本構想素案の23ページについて、私の住んでいる地域は高齢化が進んでおり、その中でも90歳まで兼業農家として田んぼを守っていかなければならない。そんな状況であるが、市の特産である山田錦のブランドを生かして日本中、世界中へ発信するという視点もあれば示してほしい。また、農業だけでなく地場産業も振興していくという、総合計画を読んだ人に希望を与えるような記述がほしい。
- ・基本構想素案の24ページでは、行政の経営に係る意気込みや、地域の思いを形にするプロジェクトの中で、地域自治、共生、参画、協働といったものが重要になってくる。また、市民や審議会が出た意見がどのように反映されたかというフィードバックが必要であるとともに、市民の方に、計画の達成状況、進捗状況が分かるようにするということも必要である。市民の方にとって、行政が勝手に策定して勝手に管理しているということがないようにすべきである。

(委員)

- ・私はまちづくり協議会の部会長をしており、まちづくり協議会の中で子育て部門の組織づくりを進め、継続してできることを考える枠組みをつくった。

(委員)

- ・三木市には、多くのゴルフ場、ネスタリゾート、三木山防災公園のビーンズドーム、道の駅三木など、いろいろあるが、三木市に来た観光客が帰りに買い物できる場所、観光拠点が必要である。

(委員)

- ・少子化が進むとともに、夫婦にとって、理想とする子どもの数を持ってないというのが現状である。その最大の理由は、日本の教育費が非常に高いということである。その1つとして、日本は教育費にかかる財政支出の割合がOECD諸国の中で最低である。初等教育と中等教育の前期は義務教育であるため差はないが、高等教育、就学前教育費における財政支出が極端に低い。そういった中で、若い世代に移住、定住してもらうためには、学校教育の充実、家庭への予算的な支援の充実について考えなければならない。三木市で実施できるかは別として、他の自治体で実施されている取組の例としては、学校給食費の無償化、学童保育の充実、留学促進のための寮の完備、公設民営の塾を設立して進学を支援するなど、様々な先駆的事例がある。そのなかで、

いくつかでも取り入れることができれば、教育の環境が整備され、若い世代の移住、定住も促進できる。

(委員)

- 教育について、三木市では、学校再編という大きな課題に取り組んでいる。その中で三木みらい会議での意見を見ていると、教育委員会の方針と違う総合計画を策定してほしいという意見があった。家族がどうやって子どもを支援できるかと考えたときに、学童保育や交通網の整備、地域の方による通学支援や見守りといった子どもたちが安心して通えるようにすることを、行政が組織の枠組みを越えて取り組む必要がある。

(委員)

- 平成31年度の当初予算で、クラウドワーキングを三木市で広めるという案があるが、クラウドディレクターの仕事で、業務指導、相談、計画、仕事の受注と書かれており、私は、特に仕事の受注が非常に重要になると考えている。仕事の受注を三木市内の企業、神戸、大阪の企業からいかに誘致して成果に大きく関わってくるので、この仕事を誰に任せるのか、どれだけのコストをかけるのかについては、しっかりと検討すべきである。